

函館のまちづくりを考える
はこまち通信

39
Vol. 39
2016年12月

発行/函館市地域交流まちづくりセンター



クラウドファン
ディングで
資金募集中!
詳しくは、
11ページへgo!

市民
創作 **函館野外劇を
後世に残したい!**

今号の市民活動団体

- ① 道南ひきこもり家族交流会「あさがお」 ② コーピングワークショップ函館



函館市地域交流まちづくりセンター
センター長

函館市青年センター
センター長

丸藤 競 池田孝道

池田孝道 [プロフィール]

函館市出身。38歳。函館市青年センター・センター長
函館ラ・サール高校卒業後、大学生活を含め10年間を関東で過ごす。地元に貢献したいという思いから函館に戻り、函館市青年センターに勤務。6年の勤務を経てセンター長に就任。若者支援にあたっている。

【聞き手】函館市地域交流まちづくりセンター
センター長 丸藤 競

今回は、12月1日に函館市青年センターの新センター長に就任した池田さんに、今どきの若者像や施設運営への思いをお聞きました。

対談

丸藤 新センター長就任、おめでとうございます。

池田 ありがとうございます。

丸藤 まずは、青年センターはどんな施設なのか、教えてください。

池田 設置目的を読むと、「青少年の教養の向上」「健康増進」「情操の純化」を目的とした施設となっています。これを私なりに解釈すると、「若者のためになること」をしようことだと考えています。若者のサークル活動の応援をしたり、講座を企画したり、相談にのったりですね。

丸藤 応援ということっ。

池田 メンバー募集の手伝いだったり、日頃の活動の成果を発表する場を一緒に作りあげたりなどもしています。

丸藤 私も「青年」の中に入れますか？

池田 年齢でいくと、15歳以上29歳未満となっています。

丸藤 ぜんぜんダメですね(笑)

池田 でも、利用していただくのはどなたでも自由です。青年が使ってない昼間の時間帯などは年齢が上の方も多く利用していますし、勉強スベ

特集

はこまち対談

若者の支援を続けたい



一スがあつたり、2階では図書貸し出し、ロビーでは飲食もできます。

丸藤 市電の千代台電停のすぐそばなので、気軽に入ってもらいたいですね。

池田 年配の方、コソコソが青年の方などたくさん来られています。条件を満たした青年団体は減免で施設を利用できますし、一般団体も有料ですが大歓迎です。夜は10時まで開館しているので、仕事や学校が有る方からはとても喜んでもらっています。夜の時間帯は、全ての部屋が使われていることが多いですよ。

丸藤 どんな活動をしていますか？

池田 「青年」の枠で活動しているところだけで49団体。まだ増えると思います。最近は、ダンスサークルが多いですね。あと演劇の団体も増えています。

丸藤 体育館もありますね。

池田 硬いボールは使えないという制約はありますが、ソフトバレーとかバドミントンとかも盛んです。あと、マーチングバンドも熱心ですね。

丸藤 今どきの若者は、どんな感じですか？

池田 青年センターを利用していらっしゃる皆さんは、凄く向上心があって頑張っている感じがします。真っ直ぐな気持ちが出ていますね。

丸藤 みなさん、元気に挨拶してい

かれますね。

池田 「こんにちは」とか「ありがとう」って声を聞くと、とても気持ちよく仕事ができます。

丸藤 広報誌からも、楽しそうな雰囲気伝わってきます。

池田 実際、楽しくつくっています。(笑)

丸藤 建物の古さを感じさせませんね。

池田 昭和44(1969)年に建てられたそうです。私自身、就職試験の面接で初めて来たとき、古いけど綺麗だなと感じました。中に入ると、みなさん活発に活動しています。プログラムの刺激を受けました。

丸藤 とところで、池田さんは青年センターで働く前は何をしていたんですか？

池田 光学レンズの研究開発です(笑)

丸藤 全く畑違いですね。戸惑いませんでしたか？(笑)

池田 利用者さんもスタッフも理解がある方ばかりで、仕事を覚えるのにも苦労したというよりはあまりありません。とても自然に育てていただいたので、感謝しています。

丸藤 仕事をしていくうえで、心掛けていることはありますか？

池田 利用者とのコミュニケーションを積極的に行なうようにしています。例えば、青年センターフェスティバルのステージを一緒につくりあげていく

といったことをすると、全く距離の縮まりかたが違います。その中から聞ける声もあります。

丸藤 家に帰ると、イクメンのパパだとか(笑)

池田 家族サービスが趣味です。洗濯は得意ですよ(笑)新しい家族も増え、子どもから学ぶことも多いです。センターの業務にも活かせると感じています。

丸藤 12月1日からは、新センター長という立場になりました。抱負を聞かせてください。

池田 前センター長の仙石さんは20歳くらいから市民活動や大きなお祭りの陣頭指揮をしたりして、若い人をグイグイと巻き込んできました。私とは経験などが違います。だから同じようにはできません。自分なりにできることは何かと考えたのですが、どんなことが若者のためになるのか、ニーズを正確に調査して必要なことを提供していきたいと考えています。

丸藤 その施設のトップの個性が施設の雰囲気をつくっていくので、池田さんらしさを活かしていくのが良いと思いますよ。

池田 力まずに(笑)、池田に任せようと思ったださった気持ちに配慮されるようにしていきたいですね。

丸藤 函館のまちについては、どう思

っていますか？

池田 以前は、さみしい気持ちになっていました。お店がだんだんなくなっていくと、人口が減っていくことを目の当たりにしたので。でも今は少し考え方が変わりました。仕事以外のところでサークル活動などで輝いている若者を見ると、光がさしてくるよう感じます。

丸藤 今後の夢は？

池田 若者のため、まちのためになることをしていきたいですね。具体的には、若者の働ける環境をつくりだしていきたい。私には企業を誘致するのは無理ですが、クラウドソーシングのように企業が発注したものを個人がフリーランスの立場で請け負うための支援ならできるかもしれません。函館には優秀な若者がたくさんいるので、そういう人が函館で充分な収入を得られるようになればいいなと思います。

丸藤 実現できるといいですね。

池田 そうですね。そのためにも、まずは青年センターにぜひ足を運んでもらいたいです。居心地の良い施設ですし、いろんな相談にも応じます。「一緒にいろんな物をつくりあげていきましょう」

移住サポートセンターより

函館に移住された方をご紹介します。

函館に移り住んだ

「旅する雑貨屋シヤンティタウン」

離ればなれだった家族で「北海道に住もう」とだけ決めて待ち合わせた新千歳空港から始まった新しい旅。生まれて初めて野生のキツネを見た函館市電の終点地、谷地頭に辿り着いてもうすぐ二年になるうとしていきます。

私は鹿児島県の志布志という函館よりもずっと小さい港町で生まれ育ち、二十歳のときに一人旅で東アフリカに行ったことがきっかけに、海外旅行が趣味になり、帰国してアルバイトでお金を貯めてはまた旅に出るということを繰り返していました。趣味の海外旅行を何とか仕事にできないかと友人と始めたお店が「旅する雑貨屋シヤンティタウン」というネットショップで、のびのびと続けていくうちに気がつけば10年以上が経ちます。ネットショップをやりながら、お祭りや小さいイベントに出店するようになり、亡くなった叔母の美容室を改装して実店舗も始めることになりました。

ネパールを旅していたときに「ヴィパッサナー瞑想」という、インドでもっとも古くから伝わる瞑想法を教えられる場所があるという噂を聞き、興味を持った私もそこに行ってみることにしました。そこで出会った神奈川県から一人旅で来ていた女性が現在の妻です。今ではもうすぐ小学3年生になる娘一人と老犬と一緒に、親子三人で函館公園の動物園のすぐ近くで暮らしています。

3・11の後、私のまわりには震災と原発事故をきっかけに鹿児島に移住してくる人が増え始めました。

「移住」ということに対して世間があまり抵抗がなくなってきた空気を感じ、家族で旅に出るならチャンスは今しかないと思うようになりました。元々旅人同士の夫婦ですので、常々旅がしたくてうすうすはしていたのですが、当時保育園に入れていた娘のことを考えると、「可愛い子には旅をさせよ」のことでよろしく、幼少時期には旅をさせてあげることが彼女の後の人生に「面白い体験だと思ひ、実行に移しました。生活費が比較的安いこと、妻がヨガを習っていたことから、ひとまず娘が小学校にあがる年の頃までインドとネパールを放浪させることにしました。親子三人でインドへ出発、妻と娘は現地に残して私は帰国、仕事をしながら母子二人の旅を支えつつ、年に一度会いに行くというスタイルで二年を過ごし、娘

の小学校入学のタイミングでの帰国となりました。せっかくなので行ったことのない場所で新しい暮らしを始めよう、ということと北海道に集合することになりました。縁もゆかりもない初めての函館で知り合いもなく、五稜郭のホテルに滞在しながらの部屋探しには苦労しましたが、住むとしたら西部地区が良いという願いも叶い、ギリギリではありましたが谷地頭の部屋を借り、娘も無事に青柳小学校に通えるようになりました。

今住んでいる部屋は少し狭いですが、すぐそこには公園に、動物園に遊園地、犬の散歩がてら港に行けばカモメがたくさん飛んでいて、ちょっと歩けば函館山という素晴らしい環境に満足しています。去年の冬は私は仕事のため鹿児島で過ごしたので、今年が初めての函館の冬です。

灰が降る町からやってきた私にとっては、雪が降る街は毎日が新鮮でたまりません。少し見慣れた気がしていた町並みや景色が雪化粧する姿を楽しみながらこの冬を楽しもうと思っています。(下田 軍司)

「函館ジョブネット」

「函館しごとネット」は、函館市が運営する、函館の仕事に関するポータルサイトです。

函館市内企業情報、創業・起業情報

就職に関するイベント情報などの発信や、J-Uターン希望者向けの職業紹介を行い、函館市で働きたい人をサポートします。

利用は無料です。
函館市では、首都圏などに在住し、函館での就職を希望する方の移住を促進するとともに、首都圏等での豊かな業務経験または高い技術力を持った人材などを確保しようとする市内企業を支援することを目的に、無料職業紹介所として「函館市J-Uターン相談コーナー」を開設しています。



相談コーナーでは、求人企業及び求職者に登録していただき、ウェブサイトを通じて、それぞれの情報を確認いただいた上で、求人企業と求職者のマッチングを行っています。
詳しくは、函館市経済部労働課、電話0138-21-3309。または、ホームページ hakodate-job.net にアクセス。

移住を考えている方へ

函館市地域交流

まちづくりセンター

移住サポートセンター

電話 0138-221-9700

開設時間 9時～21時

開設日 無休(休館日を除く)



地方で起業するということ

移住するとは思ってなかった

移住者の私が函館で出版社を立ち上げて丸5年が経ちました。自身、移住者というより、函館市民だという感覚の方が強くなってきました。周囲からもすっかり市民に見られているのか、どうして函館に移住したのですか、なぜこちらで起業したのですか、と聞かれることも、めっきり減ってきたようにです。

ところが先日、久しぶりにこの手の質問を受けることがあり、答えに窮してしまいました。振り返って思いますが、私はもともと函館に移住したかったわけではありませんが、出版社をつくりたかったわけでもありません。旅行でたまたま訪れた函館が好きになって頻繁に来るようになり、宿泊節約のため小さな部屋を借りたのが始まりでした。

その時点では、自宅のある京都と

は別に「帰れる場所」があるということが嬉しく、生活に広がりが見えたように感じました。ですから自分としては、2つの町を行き来する状態が続けたかったのです。

そういう生活の中で、「函館の本を出したい」という思いが高まりました。撮りだめた写真を元に原稿をつくり、次々と出版社に売り込みました。しかし親しくしていた編集者でさえも「よし」と言ってくれなかったのです。ならば仕方がありません。自分で出版社をつくって出すしかない、ということになり、丸々函館に移住し、出版社を設立したのでした。

地方のメリットを思う

移住も起業も成り行きでしたが、ありがたいことに出版を始めて以降、本を出すたび、地元の新聞で取り上げていただいています。ラジオにも出させていただきましたし、人前で話す機会もいただきました。

そんなときふと思っのが、もし京都で出版社を立ち上げていたらどうだったろう、出版の本場の東京でどうたらどうだったろう、ということなんです。大手や老舗も含め出版社はたくさんありますし、新参者が何をしようが見向きされなれないと思うのです。新

聞に出ればグンと売り上げが伸びる、というほど甘くはありませんが、励みや自信につながります。孤軍奮闘のよそ者起業家にとって、こういう要素は大きなものです。

出版のようになんかでも仕事ができ、ネットで売れる。しかも、儲かる業種ではない、という場合、変に中央に出ていくより、地方で起業した方が有利ではないか。何となくこんなふうに思っています。大都会だと事務所代その他経費も割高ですし、車で動くにも渋滞はつきもの。何かにつけストレスも多そうですね。

地方のハンディを克服できるか？

ただ一つ、これは重要なことですが、「地方の本でもネットで売れる」ということも、それが即「買ってもらう」ということにはなりません。情報があふれる中、無名の出版社が本を出したところで認知されません。ネット広告をガンガン出せば別ですが、そんな予算はありません。

しかし先日、あるセミナーで面白い話を聞きました。地方の零細企業でも、1日3本、YouTubeにPR動画を投稿して、それを1年続ければ、商品が売れるようになるということです。要するにネット検索に引っか

からないのは、情報の発信量が少ないからで、3本×356日＝11095本も動画を発信すれば、必要とする人に見つけてもらえる。まさに塵も積もれば山となるという話で、理にかなっています。しかもYouTubeは無料で投稿できるのです。

私はすぐに実行に移し、現在、1日15本のPR動画を投稿しています。売りたい商品が5種類あるからです。今で3カ月続けましたが、2015年夏に発行し、1年間ネットではほとんど売れなかった『妄想か、大発見か… 亀ヶ岡土器には甲骨文字が刻まれていた』(佐藤国男著)が、週に1冊の割合で売れるようになりました。成果は微々たるものですが、一時的なものかもしれませんが、1年続けて実を結べば、「地方における起業の妙薬」として、この「ラム」でも報告したいと思っています。

よろしければ、YouTubeから「新函館ライブラリ」「佐藤国男」などで検索してみてください。

★プロフィール★

おおにし	つよし
大西	剛さん

1959年生まれ、大阪出身。
2011年秋より函館に移住し、「新函館ライブラリ」を設立。「市電でめぐる函館100選」など函館本の出版に取り組む。宮沢賢治生誕120年にあたる2016年には、函館在住の版画家・佐藤国男氏と函館・道南のナレーターによる賢治童話のミニ絵本付き朗読CDシリーズを発行。

NPO・市民活動団体紹介のページ

道南ひきこもり家族交流会「あさがお」

■どんな団体？

お子さんなどご家族の中に「ひきこもり」の方がいて、どうしたらよいか悩む方々の集まりで、2003年にスタートしました。「ひきこもり」は病名ではなく、何らかの事情によって、一定の期間、社会との関わりから身を引いて自分を守っている大切な休息の時間です。なので、誰にでも起こりうることで、特別なことではありませんが、長引くことで再び社会参加しにくくなつて本人も苦しみ、家族関係にも軋轢が生じることが多いので、そのような家族や当事者の皆さんが体験を語り合い、情報交換することで、解決の道筋を探る活動を行っています。

■団体のPR

活動の基本は、毎月第2日曜日の14時から16時まで開催している月例会で、会場は函館市総合保健センター2階です。

例会は、参加者が対等な立場で参加し、お互いの悩みや体験を語り合います。参加者は同じような悩みや体験を持つ方々なので安心して話し合いができ、自分自身も語ることで悩みが整理され、気持ちも楽

になっていきます。子どもとの関わり方や就労、社会参加の道筋など、たくさん具体的な体験や情報を知ることが出来ます。会員は、「ひきこもり」のご家族に限らず、このようなテーマに関心をお持ちの方や、遠方からも会報等の資料がほしいというところで会員登録されている方もおります。

例会には20名以上参加する場合がございます。しほありますので、ゆっくり語り合うために小グループに分かれて話し合うこともあります。

また、精神科医、心理カウンセラー、ソーシャルワーカーなど、保健医療福祉分野の専門職の方も参加していますので、その方面の知識や情報を得ることもできます。

“あさがお”が
咲くためには、
夜の寒さと暗闇の
時間が必要です。

■会員募集など

年会費1000円で、隔月で会報をお送りし、例会参加は無料になります(単発参加の場合は資料代200円)。例会参加は予約不要です。

お問い合わせや入会ご希望の方は野村までご連絡ください。

また、個別の面接相談をご希望の場合は、毎週月曜日13時～15時、「函館圏フリースクールすまいる」でもお受けすることができますので、野村までご連絡ください。

■これからの活動

活動のなかで、ひきこもりを体験した当事者のつどい「樹陽のたより」も誕生し、毎月第2日曜日の11時～13時、函館市総合保健センター2階で例会を開催しています。気軽なおしゃべり会ですので、人とのつながりや動き出すきっかけを求めている方は是非おいでください。



道南ひきこもり家族交流会「あさがお」

■事務局／野村 俊幸 ■会員数／約100名
 ■電話／090-6261-6984 FAX／0138-57-3041 ■メール tnomura@sea.ncv.ne.jp
 ■ブログ <http://asagao.phpapps.jp/>

NPO・市民活動団体紹介のページ

コーチングワークショップ函館

■どんな団体？

創設者の飯田正男さんが当会を始め、今年8月から市民活動団体として新たにスタートしました。コーチングを通して更に良いコミュニケーションを実践するため学びあう仲間のコミュニティです。ワークショップとは共同で何かを作る場所を表しております。参加者が自発的に活動する環境を整え、体験する場を作りながら、自分達で「納得」して、自分達で「解」をつくりながら仲間づくりをめざしています。

■団体のPR

毎月1回土曜日もしくは日曜日の13時〜17時に開催しております。

会場は概ねまちづくりセンターです。主な内容はコミュニケーションを構成する知識・スキル・ツール等を取り入れゲーム等を取り入れながら学んでいきます。定期的に東京などで活躍している講師を函館にお招きし、コーチングのデモンストラーションや体験を交え、コーチングに関する最新情報の提供を心がけ開催しております。

参加メンバーは、カウンセラー、オーガ

ナイザー、企業勤務のマネジメント職、一般の方など幅広く、現在、25名ほどの会員様と開催しています。

多様性を認め合い、人の力を引き出し、組織と社会の協働関係に寄与してまいります。

ご希望者にはコーチング教育機関（非営利型一般社団法人 国際コーチ連盟（ICF）等）で就学されたコーチの紹介なども行っております。



「アドラー心理学」小野琴理コーチ



「マインドフルネス」生沼隆史氏コーチ

良質なコミュニケーションは良薬に優る。まずは体験・体感してみませんか？
あなたの個性をいかし皆で成長しませんか？

■会員募集

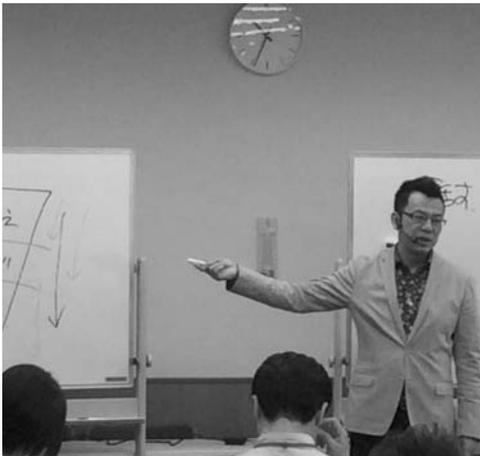
年会費はありません。一度でも月一度の定例会にご参加いただいた方を会員として扱います。

参加費は毎回2000円程度、参加予約はFacebookもしくはemailで連絡いたします。お問い合わせや予約などは江口までご連絡ください。

■これからの活動

人と人の関係性がさらに円滑になるために、コーチングを広め一人でも多くの方をサポートすることで快適な街づくりに貢献していきたいと思っております。

2017年度の開催予定(案)は1月15日(日)、2月4日(土)、3月11日(土)4月9日(日)です。ご参加おまちしております。



谷口貴彦コーチ「マスターコーチング実践公開講座」

コーチングワークショップ函館

■代表者名/江口 文明 ■事務局/コーチングワークショップ函館 事務局 松浦千慧
 ■会員数/25名 ■電話/090-1640-7761 ■メール coachig.workshop@gmail.com
 ■Facebook(会員用) <https://www.facebook.com/groups/592637814168496/>



連絡はこちらから

NPOワンポイントアドバイス!

これまではNPOのみなさんに、活動をしていくうえで必要なアドバイスをご紹介してきました。
今回は、趣向を変えて、NPOで働きたいと考えている方へのアドバイスです。
既にNPOで働いている方にも、参考にさせていただければと思います。

1. 「やりたいこと」ではなく、「必要なこと」で実現したいことは何かを考える

NPOで働くことの面白さは、「私はこうなりたい・こうしたい」ではなく、「自分が社会をこう変えたい」という「必要なこと」を実現していくことにあります。

従って、社会や地域のどんな課題を解決したいのかを自分自身の中で明確化してみることが大切です。

2. 「巻き込む力」高めましょう

NPOは単体ではなく、地域の人々や行政・企業・学校等、様々な立場や価値観・文化を持った組織や個人と連携して活動していくことが多くなります。特に「人脈」を広げていくことは、活動の幅を大きくしてくれます。関りを持った方をどんどん巻き込んでいき、つくりあげた人脈を惜しみなく他人に使ってもらうような心を持ちましょう。

3. 「楽しむ力」を持つ

NPOは個々の職員の創造性や個性を重視している組織が多くあります。また、規模が小さいところが多いので一人に期待される役割は大きく、業務の幅も広く全方位の対応力が求められます。今まで経験したことのないことも多く起こると思います。

だからこそ遊び心を活かし、楽しみながら業務ができるような感性が必要になります。

そして何より、オフの時間つまり「生活者としての私」もしっかり持ってください。

4. 冷静・客観的に調べる

日本のNPOはまだまだ玉石混交です。組織の財政基盤はどうか、福利厚生や信用度・将来性はどうか等をしっかり調べ判断してください。ボランティアの一人として関わることと、そこで仕事をして収入を得るのとでは意味合いが全く違います。そのNPOも、そこで働く自分自身もどれだけ成長できるかを、冷静に判断しましょう。

厳しいことも書きましたが、NPOはとてもやりがいがある仕事です。ひとりでも多くの「仲間」が増えていくことは、とても嬉しいことです。ぜひ、NPO職員への扉を叩いてみてください。

参考:『NPOマネジメント 71号(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]発行)



センター長のつぶやき

まちづくりセンターセンター長 丸藤 競

2016年の北海道で明るい話題と言えば、日本ハムファイターズの優勝をあげた人が多いと思います。11.5ゲーム差からの逆転優勝もそうですが、クライマックスシリーズも日本シリーズも、最高の試合を見せてくれました。私も日本シリーズの時は、出張先の北見で「俺のために優勝しろ」Tシャツを着て、テレビの前に釘付けになり応援していました。

日本一になった直後にNHK『北海道クローズアップ』で二週にわたり放送された栗山監督と荒木大輔さんとの対談は、

野球の裏話というよりは、組織論や人材育成に関して学ぶべきことが多い内容でした。栗山監督の人柄はもちろんですが、北海道のため選手のためという思い、「本気なんだ」ということが伝わってくるものでした。

栗山さんが栗山町に初めて来たのは、日本ハムが北海道に遠く前の1999年だそうです。以来、栗の樹ファームを手作りし、集まってくる子どもたちと気さくにキャッチボールをするなど、地域と親しみを深めてきました。大きなグローブを模ったソファやたくさんの野球グッズが飾ってあるご自宅も無料開放していて、自由に入れるとのこと。

そういう栗山監督の生活ぶりを見てみると、ふれあいや夢を大切に地域づくりという観点でも学ぶことが多いように思えます。

北海道の誇り、栗山監督。来年もぜひ、楽しませてください!



▲手編みの防寒具



▲2017年カレンダー

福祉の店 どんぐり 2号店

(まちづくりセンター1階)

本格的な冬の季節を前にして、インフルエンザやノロウイルスの流行について報道がなされています。気をつけましょう。

新しい年を前にして、今年を振り返ってみました。大きな事件は神奈川県での障害者施設入所者の殺傷事件でしょうか。人権を無視した事件や、人命を軽視した事件が多発しました。来年度は心豊かな年になりますよう祈念いたします。新年も変わらず、どんぐりⅡをご愛顧下さい。皆様にとって良き年になりますように!

■営業時間 / 10:00~16:00

■定休日 / 土・日曜日・祝日

製品は、函館市総合福祉センター1階・函館市役所地下売店でも販売しています。

年頭に願うことは、それほど多くのことではありません。
家族が健康で、笑顔で過ごせるように…。皆さまにとっても、願いの叶う一年でありますように。

北海道新幹線開業に沸いた2016年。DripDropもささやかながら関連イベントに参加させていただきました。あれこれ案を練り、試作を重ねた未誕生した「はやぶさアイス」。嬉しいことに、イベント後もお客さまにご注文いただく人気メニューになりました。道南はお菓子にもよく合う素材が豊富。また今年もおいしいスイーツを考えてみましょうね。

昨年の目標のひとつが、DripDropでワークショップを開催することで。私自身が楽しそうなワークショップを見つけても、曜日が合わなくてあきらめることがしばしばあり、いろんな場所でいろんな時間帯で開催されていたら…と思いました。こうして「オトナの部活」がスタートし、一年で10回を数えました。フェルト、野菜スタンプ、書道、手縫い、レザークラフトとさまざまな部活が行われ、部員(参加者さん)たちの楽しい笑顔があふれました。今年もまだまだ別なジャンルの部活が控えています。どうぞ楽しみに。

コレクション、と呼べるほどでもないのですが、気がつくともコーヒー豆モチーフのモノが手元にくっつく。たまにはそういうものをお披露目しましょうか。きっかけは銀粘土のイヤリングでした。その後、アンティークビーズのイヤリングや陶やシルバーのブローチ…とアクセサリーのコーヒー豆率が高くなっています。手ぬぐいは友だちがみつけてプレゼントしてくれたもの。文房具類では、マスキングテープやスタンプ、レターセット。冷蔵庫にくっついているマグネットは、メジャースプーンですくったコーヒー豆。そういえば、帽子作家さんをお願いしたハンチングにもコーヒー豆が刺繍してありました。今年はどんなコーヒー豆に巡りあえるかなあ。

cafe DripDrop★米田尚子



煎りたて珈琲と
地物野菜メインのお食事

cafe DripDrop

カフェドリップドロップ



オトナの部活「羊毛フェルト部」の皆さんの作品

■営業時間 / 10:00~18:00

■定休日 / 水曜日

ホームページ

<http://handpick.cafe.coccan.jp/>

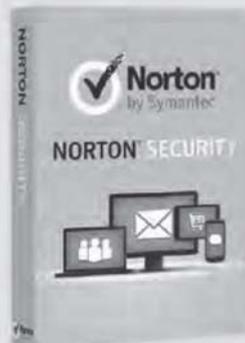
まちセンからのお知らせ



NPOのみなさまへ ソフトウェア/クラウドサービスを 特別価格で活用しませんか？



Microsoft Office
Professional Plus (最新版)
寄贈手数料: 3,855円
(市場参考価格: 70,439円)



NORTON SECURITY Deluxe
寄贈手数料: 1,205円
(市場参考価格: 7,018円)



Google Ad Grants (オンライン広告)
価格: 無償
(市場参考価格: 約1万ドル分/月)
*約120万円相当

テックスープ (TechSoup) は、社会課題の解決にむけて活動する
団体のみなさんのIT基盤整備をお手伝いします。



パソコンソフト寄贈プログラム テックスープ
techsoup

www.techsoupjapan.org

パソコンソフト寄贈 

日本

Windows 10入り
最新パソコンもあるよ!
※詳しくは中面へ



テックスープ (TechSoup) とは: 世界中で展開している寄贈プログラム「テックスープ・グローバル (本部: サンフランシスコ)」
の一部です。日本事務局は特定非営利活動法人 日本NPOセンターがNPOの基盤強化のひとつとして取り組んでいます。
寄贈対象法人格: NPO法人、社会福祉法人、公益財団法人、公益社団法人

◎お問い合わせ先

認定特定非営利活動法人 **日本NPOセンター** (テックスープ運営団体)

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル245

TEL (テックスープ専用) 03-3527-9774 FAX 03-3510-0856

Email info@techsoupjapan.org <https://www.techsoupjapan.org/>

twitter  @tsjapan

Facebook  でいいね! をしてね
facebook.com/TechSoupJapan

まちセンからのお知らせ

「市民創作 函館野外劇」を後世に残したい! 舞台は国の特別史跡 五稜郭

函館野外劇は、国の特別史跡 五稜郭を舞台とした壮大な歴史絵巻です。野外ならではの迫力で函館の歴史を次々と再現。馬が奔り、船が行き交い、手に汗握る立ち回りが繰り広げられます。出演者、スタッフは全て市民! 幾多の困難を乗り越えながら、過去29年間上演を続けてきました。野外劇を通じた郷土の歴史と文化の発信により、地域独自の芸術文化の創造と発展、ボランティア活動や生涯学習の推進、子どもの健全育成など、まちづくり推進の活動をしています。

2014年に五稜郭の石垣が崩落し、従来の舞台・観客席が作れなくなりました。今回の資金で「移動式観客席」を導入したいと考えています。また、東京や東北でのPRキャラバン、音声ガイドの導入を計画しています。



皆様のあたたかいご支援、よろしくお願い致します!

COUNTDOWN ~日本から世界に挑戦するクラウドファンディング~

未来にタネをまこう。JACCS×COUNTDOWN」プロジェクト第1弾! JACCSの創業の地、函館で1998年から五稜郭を舞台に文化芸術の振興やこどもの健全育成、まちづくりの推進を活動目標に上演されている歴史劇を応援するプロジェクトです! クラウドファンディングとは、インターネットを通じて不特定多数の人から資金を集める仕組みです。

COUNTDOWNのホームページ <https://goo.gl/bJ90jy> にアクセスして下さい。サポートするといろんなリターンがあります。

¥1,000 サポート

◎お礼のお手紙

¥3,000 サポート

◎お礼のお手紙
◎ホームページにご芳名を記載

¥5,000 サポート

◎お礼のお手紙
◎2017年夏 公演の鑑賞券1枚
◎移動式観客席の看板にご芳名を記載(小)
◎ホームページにご芳名を記載

¥10,000 サポート

◎お礼のお手紙
◎2017年夏 公演のペア鑑賞券
◎移動式観客席の看板にご芳名を記載(小)
◎ホームページにご芳名を記載

¥30,000 サポート

◎お礼のお手紙
◎2017年夏 公演のペア鑑賞券
◎移動式観客席の看板にご芳名を記載(中)
◎ホームページにご芳名を記載
◎2017年夏 公演のDVD(お届け10月末)
◎DVDエンドロールにご芳名を記載

¥100,000 サポート

◎お礼のお手紙
◎2017年夏 公演のペア鑑賞券
◎移動式観客席の看板にご芳名を記載(大)
◎ホームページにご芳名を記載
◎2017年夏 公演DVD(お届け10月末)
◎DVDエンドロールにご芳名を記載

¥500,000 サポート

◎お礼のお手紙
◎2017年夏 公演のペア鑑賞券
◎移動式観客席の看板にご芳名を記載(特大/企業ロゴ可)
◎ホームページにご芳名を記載
◎2017年夏 公演DVD(お届け10月末)
◎DVDエンドロールにご芳名を記載

¥1,000,000 サポート

◎お礼のお手紙
◎2017年夏 公演のペア鑑賞券
◎移動式観客席の看板にご芳名を記載(特大/企業ロゴ可)
◎ホームページにご芳名を記載
◎2017年夏 公演DVD(お届け10月末)
◎DVDエンドロールにご芳名を記載
◎会場に設置する野外劇のぼり旗にご芳名を記載

お問い合わせ先/事務局

NPO法人 市民創作「函館野外劇」の会
〒040-0001
北海道函館市五稜郭町29-7
五稜郭文化交流ハウス内
TEL 0138-56-8601

~すべて、市民ボランティアの力で運営~

野外劇の出演者に加え、受付や会場整備、衣裳、小道具、効果係…運営に係るスタッフはすべて、市民のボランティア。その数は公演1回あたり、250人以上です。

目標金額は、1200万円です。その使い道は③つあり、現状の課題を解決できます。

① 移動式観客席の導入

石垣崩落後、私たちは公演1回ごとにパイプ椅子やブルーシートを並べて対応しているため、後方のお客様からは観劇しにくい観客席となっています。

移動式観客席を 購入したい!

会場設営が楽に
毎年の運営員が安く



さらに、見やすくなってお客様の満足度がアップ!

移動式観客席の導入により、この問題を解決します。劇のない日にも公園利用者の妨げにならず、また、従来の舞台に復帰した場合でも使用できます。

② 東京へ! 若手メンバーによるPRキャラバン

2016年3月の北海道新幹線開業で、関東・東北から函館への観光客が増加しています。東京や東北主要都市に出演者(ダンス・殺陣チーム)を派遣し、PRキャラバンを実施したいと考えています。これにより新たな観客を動員すると共に、若手中心メンバーの育成につなげます。

③ 外国語・日本語、音声ガイドシステムの導入

近年、函館を訪れる外国人観光客は急増しています。函館野外劇の2016年公演「外国人推定入場者数」は多い日で約5%となりました。しかし現在、日本語のセリフを通訳する仕組みがありません。また、耳が聴こえづらい方(高齢者・障がい者)へのサポートも求められています。音声ガイドシステムの導入により、これらのニーズに対応します。

施設利用料金

税込(円)

階	会場名	面積	参考レイアウト		基本料金	
		m ²	形	席数	単価	金額
2階	多目的ホール	272	シアター	約100	1日あたり	10,000円
			スクール	約60		
	研修室A・B	50	シアター	約50	1時間あたり	500円
			スクール	約30		
研修室C	24	シアター	約30	1時間あたり	500円	
		スクール	約20			
3階	会議室A・B	50	シアター	約50	1時間あたり	300円 (一般利用500円)
			スクール	約30		
	会議室C	24	シアター	約30	1時間あたり	300円 (一般利用500円)
			スクール	約20		

※会場には、テーブル、イス、ホワイトボード、空調設備を備えています。※駐車場/2時間無料、超過30分までごとに100円
 ※営利目的(入場料を徴収したり、物品を販売するなど)で使用する場合は、割増料金となります。

備品利用料金

備品名	利用料金
音響機材(研修室・会議室用)	1,000円
音響機材(多目的ホール)	2,000円
プロジェクター	1,000円
スクリーン	500円

※その他、設備等については、ご相談ください。

活動支援費 要相談 **1,000円**

印刷機使用料金 ※用紙代別

- ① 製版代/1枚……………**100円**
- ② 印刷枚数/10枚まで……………**10円**
(以後10枚毎に10円加算となります。)

※例) 12枚/20円、137枚/140円、1543枚/1,550円です。
 ※①製版代+②印刷枚数が必要です。
 ※印刷用紙は各自でご用意ください。また、小銭のご用意をお願いします。

コピー料金

- ① 白黒/A4・B4・A3……………1枚 **10円**
- ② カラー/A4・B4……………1枚 **50円**
- ③ カラー/A3……………1枚 **100円**

横断幕プリント/ ポスタープリント料金 ※用紙代含む

- ① 610mm×1.5m……………1枚 **2,400円**
- ② 610mm×3.0m……………1枚 **2,600円**
- ③ 610mm×4.0m……………1枚 **2,900円**
- ④ 610mm×5.0m……………1枚 **3,200円**
- ⑤ A2版(420mm×594mm) 1枚 **1,200円**
- ⑥ A1版(594mm×841mm) 1枚 **1,400円**

※横断幕は文字原稿、ポスターはチラシ又はPDF形式で原稿をお持ちください。

■【各施設の使用申し込みについて】

- 利用日時、利用目的をご確認のうえ、TEL.0138-22-9700、または、函館市公共施設予約システムよりお申し込みください。
<https://yoyaku.e-harp.jp/hakodate/>

【お問い合わせ】



函館市地域交流まちづくりセンター

〒040-0053 北海道函館市末広町4-19

TEL.0138-22-9700 **開館時間** AM9:00～PM9:00

FAX.0138-22-9800 **休館日** 年末年始(12/31～1/3) ※器材点検のため月1回程度臨時休館する場合があります。

ホームページ <http://hakomachi.com/>

【指定管理者】NPOサポートはこだてグループ